

日本結核病学会北海道支部学会

—— 第60回総会演説抄録 ——

平成22年2月27日 於 札幌医科大学記念ホール(札幌市)

(第99回日本呼吸器学会北海道支部会
第16回日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会北海道支部会 と合同開催)

支部長 清水 哲雄(北海道社会保険病院健康管理センター)

—— 一般演題 ——

1. 肺 MAC 症治癒後に発症した肺 *Mycobacterium gordonae* 感染症の 1 例 °角 俊行・澤田 格・小林 智史・小野綾美(市立室蘭総合病呼吸器)

症例は88歳女性。76歳時に肺 MAC 症のため抗結核薬で治療し治癒した。その後再発することなく経過していたが、平成21年咳嗽と血痰のため当科再診。胸部 X 線で右肺に小粒状影と左中肺野にニボーを伴う多発する小空洞病変を認めた。喀痰抗酸菌培養から *M.gordonae* が検出され、RFP・EB・CAM の 3 剤で治療した。肺 MAC 症治癒後、*M.gordonae* に感染、発症した症例を経験したので報告する。

2. *Mycobacterium shinjukuense* の 1 例 °中西京子・山本泰司・武田昭範・西垣 豊・藤内 智・藤田結花・山崎泰宏・藤兼俊明(NHO道北病呼吸器)

症例は82歳男性。2009年4月頃から全身倦怠感あり前医に入院した。胸部 X 線写真・CTにて肺野の浸潤影、胸膜肥厚を認めた。喀痰の抗酸菌塗抹染色陽性(G2号相

当)、direct TB (TMA法)が陽性にて肺結核と診断され当科に転院した。当院での喀痰の結核菌群 PCR法が陰性であったため、抗酸菌培養検体でダイレクトシーケンス解析を行い、遺伝子配列より *M.shinjukuense* が同定された。

3. 感染症法における結核患者退院基準の検証 °藤内 智・中西京子・山本泰司・武田昭範・西垣 豊・藤田結花・山崎泰宏・藤兼俊明(NHO道北病呼吸器)

国立病院機構病院では喀痰への排菌の状況にかかわらず一定の基準を満たした場合に結核患者を退院させていたが、平成19年9月に厚労省から感染症法における結核患者の退院に関する基準が示され、排菌結果によって入院期間が規定されることとなった。そこで退院基準の導入前および後それぞれ3年間に当院で入院治療を行った喀痰塗抹陽性肺結核患者の入院期間および退院時の排菌状況を比較し、基準の妥当性について考察を行った。